

2021年1月20日

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会

## 2020年度日本PR大賞が決定

「パーソン・オブ・ザ・イヤー」  
池江 璃花子氏（競泳選手）

「シチズン・オブ・ザ・イヤー」  
一般社団法人 ダイアログ・ジャパン・ソサエティ

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会（理事長：畔柳一典）はこのほど、2020年度の日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」に競泳選手の池江璃花子氏を、日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」に一般社団法人 ダイアログ・ジャパン・ソサエティをそれぞれ選出、表彰することを決定いたしました。

日本PR大賞は、「パーソン・オブ・ザ・イヤー」として広報・PRの視点から今年もっとも活躍した人を、また「シチズン・オブ・ザ・イヤー」として、地道で独創的な広報・PR活動を通じて地域社会の発展に貢献した個人または組織を、それぞれ表彰するものです。1998年に日本PR大賞として創設して以来、年1回の表彰を行っています。

なお、本年度の日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」「シチズン・オブ・ザ・イヤー」両賞の選考・授賞理由については次ページ以降のとおりです。

## 日本PR大賞 「パーソン・オブ・ザ・イヤー」

■受賞者 池江璃花子氏（競泳選手）



### ■授賞理由

池江選手は、日本競泳界の第一人者として期待される中で白血病と診断されました。治療後も厳しい闘病生活を経て本年、見事に競技に復活されました。闘病生活中にも度々発信されたメッセージを通じて、病気を克服し競泳競技に復活することへの強い意志を表現された姿勢に、多くの国民からの支持と共感を獲得されました。メッセージを発信することでコミュニケーションの大切さを強く印象付けられ、パブリックリレーションズの観点から多大な功績が認められました。

### ■プロフィール

2000年7月4日生まれ、東京都出身。3歳から水泳を始め、16歳にして挑んだリオ五輪では、日本人選手最多の7種目で出場し、100mバタフライでは5位入賞をするなど活躍。2018年第94回日本選手権では、「全出場種目の日本新記録更新」の宣言通り、出場4種目で計6個の日本新記録を出し会場を沸かせた。この勢いのまま、アジア競技大会では日本選手初の6冠を達成し、世界にその名を轟かせた。

2019年2月に「白血病」を公表したが、同年12月に退院。2020年8月に東京都特別水泳大会で実践復帰され2024年のパリ五輪出場、メダル獲得を目指している。

### ■受賞コメント

本日は日本PR大賞パーソン・オブ・ザ・イヤーに選出頂きありがとうございます。昨年は新型コロナウイルスの影響もあり練習が思ったようにできずもどかしい時もありましたが、強くなりたいという気持ちを持ち続けることで、闘病中から目標としていたインカレにも出場することが出来ました。この数年間で経験したことを糧に、沢山の方々に勇気や感動をお届け出来る存在になれるよう、これからも目標に向かって前に進んでいきたいと思えます。

2021年1月20日 池江璃花子

## 日本PR大賞 「シチズン・オブ・ザ・イヤー」

■受賞者 一般社団法人 ダイアログ・ジャパン・ソサエティ

<https://djs.dialogue.or.jp/>



### ■授賞理由

多様性を認め合う社会のための気づきを与える活動を継続し、さらにコロナ禍の中でも社会のニーズに対して積極的に新たな取り組みを進めていく姿勢がシチズン・オブ・ザ・イヤーとしてふさわしい。

### ■プロフィール

日本では20年に亘り、暗闇での体験を通して互いを認め助けあう社会を実現するための3つのフラッグシップ・プロジェクト『Dialogue in the Dark』『Dialogue in Silence』『Dialogue with Time』を様々な地域・場所で展開。

2020年8月に3つを体験できる「ダイアログ・ミュージアム 対話の森」を開設。さらに、コロナ禍で通常の体験を提供できない中、世界で初めて暗闇ではなく明るい中での体験に進化させた「ダイアログ・イン・ザ・ライト」を発表。

### ■受賞コメント

栄誉ある賞を頂き有難うございます。

ダイアログのご体験を通し多くの方々が人と関わる喜びと対話の楽しさを知っていただきたいと思います。

そして誰もが活躍できる社会を目指し今後も活動を続けてまいります。

一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティ  
代表理事 志村季世恵

## ■日本PR大賞とは

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会（PRSJ）が、パブリックリレーションズに対する理解促進を目的に、その基本理念であるパブリックインタレスト（公益）に貢献した人、あるいはそれぞれの分野でPRの視点から活躍した人物を毎年「パーソン・オブ・ザ・イヤー」として選考、顕彰している。また2012年度から協会が公益法人への移行を機に、従来の「パーソン・オブ・ザ・イヤー」とは別に、企業や団体に長年にわたり独創的な広報・PR活動を実践し、広く社会や地域の発展に寄与し、奨励に値する成果を収めた個人またはグループ（NPOを含む）を「シチズン・オブ・ザ・イヤー」として顕彰している。

## ■選考方法

受賞候補者・団体の推薦を公募し、「パーソン・オブ・ザ・イヤー」・「シチズン・オブ・ザ・イヤー」それぞれ10組程度の候補者リストを顕彰委員会で決定。  
候補者リストに基づき、当協会会員と外部有識者による投票を行い、その投票結果を踏まえて顕彰委員会内で最終決定する。

## ■推薦基準

- ◇ 日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」  
話題性や好感度、発想の斬新さなどの観点から、経済活動、文化・スポーツ、社会、教育などの分野で、今年、情報発信など広報・PRの観点から「広報・PRに貢献した」人物  
※推薦条件  
・過去1年間で日本の社会に対し、ポジティブなムーブメントを創出した人
  
- ◇ 日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」  
長年にわたり、一般にはあまり知られていなくとも、  
企業や個人で独創的な広報・PR活動を実践し、広く社会や地域或いは団体の発展に寄与し奨励に値する成果を収めた個人またはグループ（NPOを含む）

■ **パーソン・オブ・ザ・イヤー歴代受賞者**（※肩書は受賞当時のもの）

令和2年度（2019年度）

ジェイミー・ジョセフ氏（ラグビー日本代表ヘッドコーチ）

平成30年度（2018年度）

渡辺 直美氏（お笑い芸人）

平成29年度（2017年度）

加藤 一二三氏（棋士）

平成28年度（2016年度）

小池 百合子氏（東京都知事）

平成27年度（2015年度）

リーチ・マイケル氏（ラグビー日本代表主将）

平成26年度（2014年度）

唐池 恒二氏（九州旅客鉄道株式会社（JR九州）代表取締役会長）

平成25年度（2013年度）

佐藤 真海氏（サントリーホールディングス株式会社 CSR推進部・パラリンピアン）

平成24年度（2012年度）

ドナルド・キーン氏（米コロンビア大学 名誉教授）

平成23年度（2011年度）

佐々木 則夫氏（サッカー日本女子代表（なでしこジャパン）監督）

平成22年度（2010年度）

池上 彰氏（ジャーナリスト）

平成21年度（2009年度）（この年までは「日本PR大賞」）

辻井 いつ子氏（ピアニスト 辻井 伸行氏の母親）

平成20年度（2008年度）

該当者なし

平成19年度（2007年度）

東国原 英夫氏（宮崎県知事）

平成 18 年度 (2006 年度)

川島 隆太氏 (東北大学 加齢医学研究所教授)

平成 17 年度 (2005 年度)

野口 聡一氏 (宇宙航空研究開発機構 宇宙基幹システム本部有人宇宙技術部宇宙飛行士)

平成 16 年度 (2004 年度)

古田 敦也氏 (日本プロ野球選手会会長・ヤクルトスワローズ選手)

特別賞 故 伴 信雄氏 (日本パブリックリレーションズ協会 初代理事長)

平成 15 年度 (2003 年度)

北川 正恭氏 (早稲田大学大学院教授・21 世紀臨調代表・元三重県知事)

平成 14 年度 (2002 年度)

川淵 三郎氏 (前日本プロサッカーリーグ チェアマン)

特別賞 茂木 友三郎氏 (日本醤油協会会長、醤油PR協議会会長)

平成 13 年度 (2001 年度)

野口 健氏 (登山家)

平成 12 年度 (2000 年度)

柳井 正氏 (株式会社ファーストリテイリング 代表取締役社長)

平成 11 年度 (1999 年度)

乙武 洋匡氏 (『五体不満足』の著者)

企業部門賞受賞者 カルロス・ゴーン氏 (日産自動車株式会社 COO)

文化・スポーツ部門賞 松坂 大輔氏 (プロ野球選手 (西武ライオンズ))

社会部門賞受賞者 乙武 洋匡氏 (『五体不満足』の著者)

特別賞 福川 伸次氏 (電通総研所長)

平成 10 年度 (1998 年度)

中坊 公平氏 (弁護士・株式会社住宅金融債権管理機構 代表取締役社長)

企業部門賞受賞者 沢田 秀雄氏 (株式会社エイチ・アイ・エス 代表取締役社長・スカイマークエアラインズ株式会社 会長)

文化・スポーツ部門賞 KONISHIKI (元大関小錦・タレント)

社会部門賞受賞者 向井 千秋氏 (宇宙飛行士・医師)

特別賞 猪狩 誠也氏 (東京経済大学 教授)

■シチズン・オブ・ザ・イヤー歴代受賞者（※肩書は受賞当時のもの）

令和2年度（2019年度）

一般社団法人「注文をまちがえる料理店」

平成29年度（2018年度）

気まぐれ八百屋 だんだんワンコインこども食堂

平成29年度（2017年度）

特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会

平成28年度（2016年度）

くまモン（熊本県マスコットキャラクター）

平成27年度（2015年度）

いすみ鉄道株式会社

平成26年度（2014年度）

NPO法人富岡製糸場を愛する会

平成25年度（2013年度）

NPO法人本屋大賞実行委員会

平成24年度（2012年度）

大廻 政成氏（財団法人 丸岡町文化振興事業団 常務理事）

## 公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会について

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会（略称：PRS J）は、日本PR協会（1964年結成）と日本PR業協会（1974年設立）が1980年に合併統合され、時代に即したPRの在り方の探求とPRの啓発・普及を図るために設立されました。

現在は、一般の企業・団体の広報部門、PR業およびPR業関連会社、それに有識者などの個人会員を含む約700名で組織されているパブリックリレーションズ（PR）のプロフェッショナル団体です。2012年4月には公益社団法人の認定を受けました。

主な事業としては、「各種研修」「セミナー」などの教育事業、会員相互の交流事業、「PR Yearbook」「協会ニュース」「PR手帳」などの出版事業、優れたPR事例を顕彰する「PRアワードグランプリ」、傑出したPRパーソンを表彰する「日本PR大賞パーソン・オブ・ザ・イヤー」、広く社会や地域の発展に寄与した人物・団体を表彰する「日本PR大賞シチズン・オブ・ザ・イヤー」の運営などを行っており、これらの活動を通じてパブリックリレーションズの普及と啓発、広報・PRスキルの向上、倫理の徹底を推進しています。

2007年には、PRプロフェッショナルとしての知識やスキル、職能意識を認定する「PRプランナー資格認定制度」をスタートさせ、協会内外の広報・PRパーソンや、広報・PRに興味を持つ学生など、幅広い人々に「PRプランナー」などの資格を付与しています。

2009年10月、時代の要請に応える広報・PR人材育成センターを目指し、実務能力の向上を目的とした「広報PRアカデミー」（現在は「広報・PRスキルアップ実践講座」）を新たに開講いたしました。

また2018年10月、PRプランナー試験に対応した公式テキストを全面改訂し、『広報・PR概説（1次試験対応テキスト）』と、『広報・PR実践（2次・3次試験対応テキスト）』を出版、2019年6月には、『広報・PR資格試験参考問題集』を出版しています。

2019年6月、パブリックリレーションズ活動の指針を定めた「PR活動ガイドライン」を策定いたしました。PRの仕事に携わるすべての関係者に向けて、PR活動のあるべき姿を提示するとともに、高い倫理観の下でPR活動の社会的責任を強く自覚することを求めています。

当協会はこれらの活動を通じて、広報・PRの普及と発展に努めています。